

「北極圏旅行記2017夏(24)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

～7/31 ハドゥセル島 一周(2)～



ところが、ノルウェーの官製地形図は、どんなに急な崖でも、すべて等高線だけで表現されている。もともこの地図に「崖」という記号はない。しかし上図を見ても、等高線だけで「垂直に近い崖」ということが、十分に読図可能である。

北欧の官製地形図は非常に美しい。特に山岳地帯の地図は、芸術的と言いたくなるくらい素晴らしい。上図は Hadseløya (ハドゥセル島) 北部の地形図だが、まるで飛行機から実際の地形を眺めているように、直感的に地形をとらえることができる。



地形図の通り、島の西端から北側に回り込むと、本当に急峻な崖の地形が見えてきた。



地形図の命は「等高線」である。上図は、国土地理院の2万5000分の1の「北アルプス南岳付近」地形図である。航空測量で等高線は非常に正確なのだが、「岩の崖」の記号がやたらと多い。確かに、崖が多く危険な地形ということはわかる。しかしそれが、地形図の最も重要な構成要素である、等高線を隠してしまっているのが残念だ。



こんな地形の場所にも、崖の下の小さな土地に民家が建っている。細長いノルウェーの国旗が美しい。



前ページの地形図で、最も美しい地形が見られるはずの場所まで来た。しかし山は雲に隠れて、岩峰はまったく見えなかった。



左側はすぐに海岸になっている。時々車を停めて、写真を撮りながら、ゆっくり進むことにした。



岩峰の前衛と見られる円錐型の山が見えた。麓にはかわいらしい民家が見える。ここに泊ってみたい。



やがて、美しい長大な橋が見えてきた。この橋は、Hadseløya (ハドゥセル島) の Stokmarknes (ストクマークネス) と、対岸の Langøya (ラング島) を結ぶ、Hadselbrua (ハドゥセルブーラ) という橋である。全長 1011m、中央部の橋脚の間隔は 150m である。



橋は美しいが、最高点は非常に高く、そこから降りる時は、ジェットコースターのようにちょっと怖い。歩道を歩いたり自転車で走ったら、もっと迫力があるだろう。この橋はフィヨルドの湾口ではなく、島と島の間にある海峡の上を通っている。海峡は重要な海路となっていて、下を大型船も通過する。大型船は、高さ 30m のものまで通過可能である。

橋の建設にあたっては、地元住民、建設会社、それにコミューン（自治体）のちょっとした論争があり、結果的にちょっと曲がった形状の橋になっただけ。開通は 1978 年 7 月 1 日と意外に古い。橋ができる前は、当然島を結ぶフェリーもあったが、廃止された。

この橋を渡ると、Langøya (ラング島) である。どうも、ロフォーテンに来てからは、すべて陸路だけで走っているのだから、「島めぐり」の実感があまりない。